

第八回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：茜

【日時】

1月12日(木) 10:00～12:00

【場所】

荒川区役所3F 議員待遇者室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：おわりに

ステップ2：話し合い

ステップ1：はじめに

コンサルタントより、2月5日の最終報告会の説明と委員の出欠席の確認がなされた。

ステップ2：話し合い

コンサルタントより、最終報告会に向けた資料が作成された。資料の内容を確認しながら、委員の意見を伺うこととした。

【提言の構成について】

- 構想(案)では桜の木が使用されているが、桜の花のイメージで色を統一すると一目瞭然にはわからない。分野別に色分け等をした方がわかりやすい。
- 桜の花を咲かせなくても、子供たちや笑顔などの絵を花として木に咲かせた方が良い。

【内容について】

コンサルタントより、今まであまり議論できていない産業分野に関して議論をするか、それ以外の分野の議論を深めていくかの相談がなされ、まずは産業分野の議論をしてから、他分野の内容の議論をしていくことになった。

(産業)

- 区が連携支援や販路拡大など、様々な中小企業支援をやっているのは自営業の立場からするとよくわかる。
- 荒川区は住工混在の地域で、中小企業や町工場等の零細企業が多いのが特徴的である。そのような企業に仕事が回ってくるような大企業誘致を実現させてほしい。
- インターネットが発達し、会社のPR等はできるが、個人で大企業の誘致を実現させるのは不可能である。荒川区は中小企業のまちなので、誘致したことにより、区内の活気が戻ると思う。
- TVのニュースで不景気等の報道が流れる際に、イメージで町工場の映像が流れたりするが、中小企業や町工場があったからこそ、日本の産業が発達してきた。中小企業や町工場の暗いイメージを払拭して、明るいイメージ作りをしたい。
- 環境関係の大企業を誘致し、地域全体で様々な環境に関するビジネスが行われていけば、地球環境に力を入れている荒川区というイメージにも重なるし対外的にも良いアピー

ル材料になるのではないか。

- 住宅と工場が点在しているので、行政側で規制をかけ、一部を工業団地のようにしたら良いのではないか。
- 荒川区には下町のエジソンと言えるような人がたくさんいる。そのような方々が元気に活躍していけたら良い。
- 荒川区にある資源で、もっと雇用を生み出せることができれば良い。例えば、日暮里繊維街がファッション関係で盛り上がっていければ良いのではないか。
- 以前、荒川区の「光ファイバーによるインターネット接続補助制度（区内の FTTH サービス加入者に対して個人で最大 3 万円の初期費用を補助する）」を行ってが、どのくらい光ファイバーが普及したのか知りたい。また、その補助制度により、どれほどのメリットが荒川区にあったのか知りたい。
- 荒川遊園はとことんレトロ路線を突き進んで、親世代も懐かしんで楽しめるようなテーマパークになれば良い。そして、都電の駅と荒川遊園までの間にたくさんの駄菓子屋やもんじゃ焼き屋などを誘致し、そのお店のおばあちゃんとのコミュニケーションやお金の計算を学んだり、近くの公園でおじいちゃんから凧揚げを教えてもらったりするようなものがあれば良い。そこで特に地域の高齢者と子どもとの繋がりが作れたり、雇用が生まれればさらに良いと思う。

(生活・環境)

- 「きれいで快適にすごせるまち」が「生活・環境分野」の将来像のフレーズとしてあったが、この内容は、まちづくり分野の内容になると思う。
- 「生活・環境分野」の内容はもっと環境問題を前面に押し出した表現にした方が良いのではないか。
- これからの時代を考えると地球環境問題への対策が必須だし、その分野のビジネスの可能性も大きいと思う。よってそれらが前面に出るようにこの分野の将来像としては「エコなまち」としたらどうか。
- 町会単位で資源ごみを出しているが、町会が無いところでは、ホームレスの人が回収している姿をよく見かける。資源ごみも区の財産だと思うので回収しないように、区で指導できないのか。

区回答 町会単位で資源ごみを業者に売り、そこで金銭を得て、町会の活動費などにしている場合、所有権は町会にあるが、町会以外で区が回収する場合、法的にその資源ごみは区の財産と主張できない。法的に財産権を主張できないので、持ち出さないように注意を促すことしかできない。

(学校教育)

- 最近の子供たちは慢性的に運動不足なので、校庭の芝生化をより広く普及させたり、空いている体育館を開放して、体を動かすことができる環境にする等の対策が必要である。
- 自分の子供は環境問題に力を入れている環境推進校に通っているが、家族ぐるみで環境問題を考えるきっかけになった。子供の頃から、そういう意識を持つことは良いことである。全部の学校で実施していったら良いと思う。

- 学校単位で色々な特色を打ち出しているのに、区民の人が、学校を選択できるようになっている。

(安心・安全)

- 児童に対する凶悪な事件が多発していることを考えると、区内でも遠くにある学校や区外の学校に通うより、家の近くの学校に入学させた方が良いと思ってきている。
- 防災無線や防災ヘリコプター無線は聞き取りにくいので、防災無線の整備は急務だと思う。特に、マンションは機密性が高いので、聞き取りにくく、対策が必要である
- 今は学校単位で不審者情報等の知らせが来るが、未就学世代の子ども達の家庭では、情報が入らない問題がある。情報がみんなにいきわたるような対策を立ててほしい。
- 最近登下校の際は、まちに大人が出て子供たちを見てくれる体制を組むことができてはじめていますが、一方で、登下校以外の時間帯で遊んでいるときの不安がある。そのような不安をなくすべく、町全体で子供の安全をみていけるようになったら良い。
- 子供の成長にとって、親の知らない世界を持つことは必要である。親以外の大人が見守ってくれるようなシステムがあれば良い。
- 区内のひろば館や校庭等は比較的安全だが、路地が入りこんでいるような場所にある公園は、安心して遊ばせることができない。

(まちづくり)

- 道路の整備に関しては、荒川区は「細街路拡幅整備事業(建築物の新築、建て替えの際に、建築主等の協力を得て細街路を拡幅整備する)」により実施しているので、アピールした方が良い。
- ゴミ置き場にダストボックス等を設置すればまちの景観が良くなるのではないだろうか。
- 場所によって可能なら、歩道全体を駐輪場にするという案も入れてみたらどうか。
- 準工業地域に建っている町工場は、新たに建ったマンションから騒音等の苦情を受けることがある。きちんと住み分けされているはずなのに、どうしてこのような問題があるのだろうか。

区回答 荒川区の6割は準工業地域である。準工業地域は工場だけでなく、住居も建てられる地域である。時代によりまちの姿が変わっていき、それによって工場とマンション住民との間の問題など、難しい問題が出てきている。

(行政体制)

- 区報をよく読むと、行政からたくさんのサービスを受けているのに、住民はありがたみを感じていない。区側がもっとアピールしていくことが必要だと思う。
- 年末の児童に対する事件が起こった際に、低学年のみではあったが迅速に防犯ベルとランドセルに付ける黄色いカバーが配布されたことは良かったと思う。そのようなことを、もっとアピールすれば、区政への関心も高くなると思う。
- 区報にスポーツセンターの講座等が掲載されているが、見過ごされているのではないかな。もっとインパクトの強いアピールが必要なのではないか。
- 区報は読みやすくなっているが、やはり少し「お役所的」な感は拭えない。大きなイベント告知の際、区報の他に、もっとアピールできるような折込広告のようなものがあれば

良いのではないか。

- CATV をよく見ているが、荒川区に関して、いろいろな情報が得られ、民放のテレビを見るより良い情報が得られる。今後、もっと上手い活用法を考えて行くべきである。
- 区役所全体の事がわかっていて、対応してくれる「コンシェルジュ」の案は是非盛り込んでほしい。
- 「コンシェルジュ」は人だけでなく、電話等でもやさしく対応してくれる人、または体制も必要だと思う。

ステップ3：おわりに

コンサルタントより、今回の話し合いを基に素案の修正版を作成し、委員に郵送することとした。

【次回について】

次回日程は1月30日(月)10:00より

以上